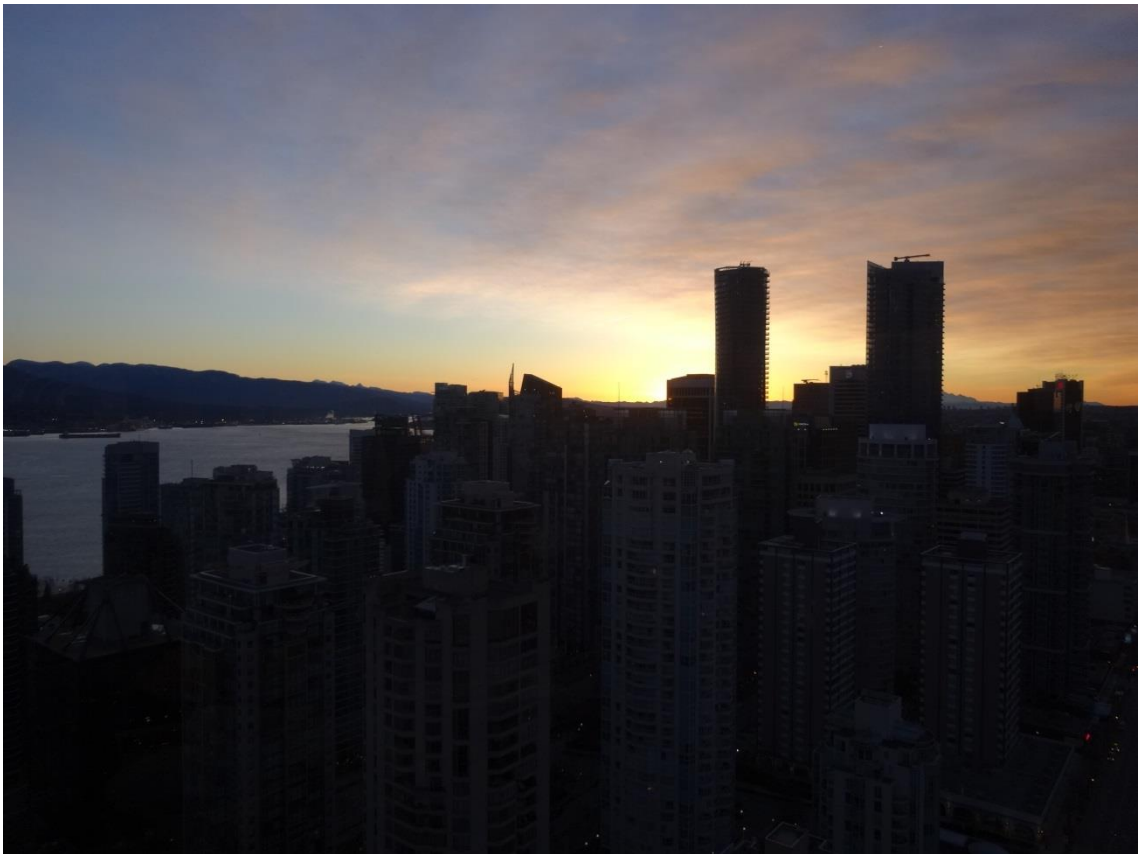


カナダ研修プログラム

～私達の感じたカナダ～

引率: 呉先生・久保先生

HIS: 秋澤様 MYK: 向井様



目次

1. ヒューマニズムについて …柳澤 悠
2. ホームステイについて …藤田 美月
3. ホストファミリーとの週末 …鈴木 奈緒
4. 市内研修について …安倍 萌香
5. カナダのお店について …柴本 あゆみ
6. ブリタニアセカンダリースクールについて …浅田 恵美
7. カナダの医療制度について …高瀬 愛美
8. 日本との文化の違いについて …坂下 駿平
9. 最後に

1. ヒューマニズムについて

今回のバンクーバー研修で初めて外国に行き、初めて日本語が通じない環境で生活をしました。そんな中、緊張しがちが私の私に本当の家族のように接してくれたホストファミリーや、ブリタニアセカンダリーでの時間をサポートしてくれたバディには感謝の気持ちでいっぱいです。

あっという間の6日間でしたが、研修を終えて一番に出てきた感想は「本当にいろいろな人と関わった気がするなあ」というものでした。

確かに思い返してみるとインド系のホストファミリーや、バディを務めてくれた中国人の Kitty をはじめ、週末にはアメリカから来たホストマザーの友人、学校ではフランス、イタリア、コンゴ共和国出身の親を持つ子など、日本にいたらかかわることのなかったような人にも出会うことができました。

友人が隣の国から遊びに来ること、親が自分とは別の国の出身なこと、カナダでは当たり前なのが日本での当たり前と全く違って、カナダの多民族国家としての一面を少し見ることはできた気がします。

もう一つ、多民族国家としてのカナダを感じることはできたのがダウンタウンやショッピングモール、パブリックマートにあるお店です。英語やフランス語の看板がある横に、日本語や中国語の看板があったり、ピザを売っている横で、お寿司やタコスが売っていたり。売っているものはどれもカナダ風にアレンジされていましたが、さまざまなお店が並んでいる様子はなかなか日本では見られないものだと思います。

短い研修ではありましたが、実際にカナダに行って、生活面ではもちろん学校のシステムや現地の人との会話の中で日本との違いに驚きの連続でした。

そしてその違いはどれも日本にいただけでは気づくことのできなかつたものばかりです。研修を通して気づいたこと、感じたことを忘れずに今後の英語学習に生かしていきたいです。



2.ホームステイについて

今までホームステイの経験がなかったので、ホストファミリーに対面するまでとても緊張していました。約9時間という長いフライトと、慣れない周りの環境に戸惑っていましたが、ホストファミリーが暖かく迎えてくださいました。いつも優しい笑顔で、とてもよく話しかけてくれるホストマザー、歌を歌うのが好きで料理が得意なホストファザー。この2人が支えて下さったおかげで私たちは充実したプログラムを送ることができました。最初は何を話せばいいか分からなかったし、日本が恋しくなってしまうけれど日にちが変わってだんだん慣れていくと自分から会話を振れるようになり、未熟な自分の英語が伝わると達成感と同時に英語を話す楽しさを改めて感じました。ホームステイをすることでネイティブと会話をし、表現やボキャブラリを増やすきっかけとなったと思います。

ホストファミリーと過ごした週末ではカナダの自然、文化、習慣などを一気に感じました。生活している中で私が一番気にしたことはドアの開け閉めです。日本人は律儀で丁寧なのでドアはふつつ開けたら閉めますが、カナダではドアは開けたままにします。それがトイレのドアだとしたらそれは中に人がいるかないかというサインです。部屋のドアだとして、中に人がいてもドアが閉まっているのであれば「1人にしてください」というサインらしいです。もしこのことを現地スタッフさんに教わってなければ変な誤解が生まれていたかもしれません。このことを現地に着いて初めて知ったので、このことを通して自分の情報の足りなさや、少しの文化の違いの差で相手に誤解を招いてしまう可能性があるということが分かりました。このような国のルールは分かる範囲でも事前におくべきだと思いました。

カナダのルールとして有名なのは、公共の場での飲酒禁止、小銭をたくさん使って支払ってはいけない、などが挙げられます。これらは法律で決められているそうです。またレストランで食事をした後チップを払う制度があります。チップは一般的に10%~15%で、良いサービスをしてくれたと思ったら多めにチップを払うそうです。今回のプログラムではそのようなことはありませんでしたが、海外ならではの制度なので、覚えていて損はないと思います。その他、日本では普通でもカナダでは普通ではないことだと思ったことは、少しの雨では傘をささない、洗濯は週に1回、トイレが少ない、コンビニが少ない等です。

ホームステイをするうえで心がけることは、その国の文化、習慣をできるだけ知り、事前学習をしっかりとしておくこと、自分の意見をはっきり伝えること、話しかけてもらうだけではなく自分から積極的に話すことだと思いました。私がホームステイした家のルールは、トイレで使ったペーパーは流さずにゴミ箱に捨てるというルールでした。普段そのようなことはしないので戸惑ってしまい、現地スタッフに確認してもらいましたが、ホーム

ステイのトラブルはほとんどが誤解に基づくものだといわれています。わからないことは身振り手振りでもして交流をすることが重要だということがよくわかりました。

3.ホストファミリーとの週末

ホストファミリーの家の隣にはほかの生徒がホームステイしていたので、一緒に週末を過ごしました。ショッピングに連れて行ってもらったり、景色を見たりなど充実した時間を過ごせました。Granville island に連れて行ってもらいお土産など買ったりし、お金を払ったりなど少しでも現地の方と交流をもてました。

ショッピングモールで洋服を買う際に試着する時、店員の方と喋れたことが良かったかなと思います。化粧品の海外のメーカーのものが半額ぐらいの値段で売られていて、衝撃的でした。

スーパーマーケットにいった時はとてもびっくりしました。牛乳が洗剤の容器みたいな形ですごく大きかったのが印象に残っています。アジア系のスーパーマーケットに行ったので日本のお菓子も売っていました。やはり値段は少し高く売っていました。日本に売ってないような種類や味があって驚きました。日本と違って、カートを押すのではなく下で引いていました。レジでは値段が出るやつが前になく聞き取るのが大変なのに後ろにあってけっこう不便でした。スーパーマーケットは日常生活で利用する場で、その国の文化が影響するのではないかと思い、とても興味深かったです。

お昼にマックに連れて行ってもらいました。ケチャップや飲み物がセルフなど日本との違いをたくさん見つけられてとても楽しめました。ショッピングモールのマックで、おひるどきでしたが、日本と比べるとすいていました。

バンクーバーで有名な公園に連れて行ってもらったり、海岸沿いに行ったり、高台に行ったりなどたくさんの素敵な場所に行けて、とてもうれしかったです。

日本でも同じような場所はたくさんありました、日本での見え方と違って、とても感動しました。住みやすそうだなと思いました。

夕飯の後に家でホストファミリーの家の子供と一緒に映画をみました。字幕も英語だったので理解するのが大変でしたが、アニメだったので英語の字幕でも比較的分かりやすく、見やすかったです。

ホストファミリーの家に子供がいると喋りやすく、コミュニケーションも取りやすいかかなと思いました。

週末にいろんな所に連れて行ってもらえたことは、とても貴重でいい経験になりました。

4.市内研修について

4日目には、ブリタニアセカンダリースクールで授業体験をしたあと、市内研修としてダウンタウンとガスタウンに行きました。

まず、2010年の冬季オリンピックの聖火台もあるカナダプレイスでバスを降りました。鏡張りのキラキラした高層ビルが建ち並ぶすぐ横にカナダプレイスがあり、ビルと反対側には入り江があり、その向こうにノースバンクーバーが見えます。カナダプレイスはクルーズ客船のターミナル、ホテル、レストランなどが入っている建物で、5つの白い帆を見立てた屋根が印象的で綺麗でした。

カナダプレイスから少し進んだところには、スカイトレインという電車の始発の駅になっているウォーターフロント駅があります。この駅からはノースバンクーバーと往復するシーバスも出ています。

ウォーターフロント駅の先に進むと、「バンクーバー発祥の地」であるガスタウンに入ります。ガスタウンにはカフェやお土産ショップがたくさん並んでいます。建物は茶色いレンガでまとまっていて、すぐ横は高層ビル群なのにとってもレトロな雰囲気の街並みでした。また、道の途中にゴミ箱が置いてあって、普通ゴミとリサイクルできるゴミに分かれているのいいなと思いました。ガスタウンには蒸気時計があり、15分おきに蒸気で笛が鳴ります。蒸気時計は世界に3つあって、バンクーバーと横浜と北海道の小樽にあるそうです。みんなでガスタウンのミシェルズというお店でお土産を買いました。

6日目、最終日にもホストファミリーと別れたあと、バスで市内を巡りました。

初めに、4日目に行ったダウンタウン・ガスタウンを通り、第二次世界大戦時に日本人街となっていたパウエル街に行きました。以前は日本人街として栄えていましたが、今はバンクーバーの中でも治安が悪く、一人歩きをするには危険な地帯になっています。そこは映画『バンクーバーの朝日』の舞台にもなった場所で、朝日チームのホームグラウンドを見ました。現在はオープンハイマー公園(パウエル公園)となっていて野球場としては使われていませんが、最弱だった朝日チームが、セーフティバントを思いつき頭脳野球(ブレインボール)によって、カナダで一番人気のチームになった舞台です。

次にダウンタウンの西に位置する、スタンレーパークを訪れました。ダウンタウンのすぐ横にあるのにとっても緑が多いことに驚きました。先住民の村長などの人生を表したトーテムポールも立っていました。スタンレーパークにも多く生息していた米杉の幹からは、以前、衣料品などを作っていたので、カナダではとても大切な木とされているそうです。

スタンレーパークの後には、食料品の店舗がひしめく大きな屋内マーケット、グランビルアイランドに行きました。野菜やフルーツ、ケーキやお菓子なども売っていてなんで

も揃えられそうなくらい大きなマーケットでした。野菜やフルーツは大量に積まれていて、全て量り売りで売っているそうです。

最後はブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)を訪れました。日本の大学とは規模が違い広大な敷地で、ひとつの街のように大きな大学でした。UBC内には新渡戸稲造を記念して造られた日本庭園があります。日本庭園独特の苔なども植えられていて、この空間だけ日本にいるように感じることができました。UBCには入学することも難しいですが、卒業することはもっと難しく、学生のほとんどは自分でアルバイトをして学費を払うので、学費を払えなくなって辞めてしまう人も多いそうです。大学内のブックストアは本だけでなく、大学で使う教材はもちろん、UBCのグッズや文房具、カナダ土産などが売られているとても大きなお店でした。そこで30分ほどお土産を見た後、UBCをあとにし、バンクーバー国際空港に向かいました。



5.カナダのお店について

カナダのスーパーでは、どこもコストコの様で、様々な商品が日本では考えられないようなサイズ、量で売られていてとても衝撃的でした。特に印象に残ったものはモンスタ、レッドブルなどのエナジードリンクが日本の何倍もの種類があったことです。日本では、多くても数種類程度で、棚の一角にしか置いていませんが、カナダのスーパーでは大きな棚の上から下まで、見た事も無いようなエナジードリンクで埋め尽くされていました。

また、お店で購入した商品をお店の中で食べている光景をみかけました。日本ではまず見られない光景で、見かければマナー違反と思う人が多いと思います。このような考え方の違いが文化の違いなのかなと思いました。量り売りのものも結構多くお米やお菓子、コーヒー、お菓子の材料までもが量り売りでした。アイスクリームなど日本ではあまり見ない色がたくさんありました。オレオのアイスクリームなどがたくさんあってとてもおいしそうでした。青いアイスを食べたら口が真っ青になってしまってあまりとれなくて大変でした。やはりいろんなものがカラフルでした。

スーパーには、どのスーパーにもちょこちょこ日本のものがあるが、しかも日本では普通売ってないようなお抹茶セットまであって、意外に日本のものが輸入されているのだなと思いました。

また、おつりが難しくて結構セントが残ってしまいました。お金は事前に勉強しておいた方がいいと思いました。



6.ブリタニアセカンダリースクールについて

私たちは6日間の研修のうち、2日間姉妹校の Britannia Secondary School に行きました。

交通手段は、スクールバスでした。

学校のシステムはみなと総合と少し似ています。それは自分で科目を選ぶということです。なので、人によって時間割は違い FREE BLOCK がある生徒もいました。

私の2日間の時間割(バディの時間割)

[1日目]1.French 2.FREE BLOCK 3.lunch 4.Law

[2日目]1.History 2.Philosophy 3.lunch 4.English でした。

本当は5時間目まであるのですが私たちは4時間目まで一緒に授業を受けました。他にも、Math、Chemistry や Chinese などもありました。

学校は横にとっても広くすぐに道に迷ってしまいそうでした。授業ごとに教室が違うため、沢山の教室がありました。机は、コの字型になっていました。廊下には生徒1人ずつのロッカーがありました。授業はもちろん英語で話すスピードも早く、内容を理解するのは難しいです。

ここで日本と違う点がありました。それは、先生によって異なることもありますが授業中にスマホの使用や飲食が許されているということです。ただ、寝ることはどんな先生でも怒るそうです。ですので、生徒はみんな起きて一生懸命授業に取り組んでいました。私たちもバディに助けをもらいながらノートをとるなどして授業に参加しました。

1日目の lunch は host mother が用意していました。2日目の lunch は Potluck Party でした。Potluck Party とは、みんなでご飯を持ち寄ってシェアして lunch をすることです。pizza、pasta、バナナケーキやカナダ発祥の Poutine などがありません。みんなでお話しをしながら食べたのでとても楽しい lunch でした。

2日目の午後は ice skating 体験と Britannia 主催のお別れ会をしてくださいました。ice skating はバディが教えてくれました。私は初体験で怖くてなかなかできなかったんですがバディが丁寧に教えてくれてすぐできるようになりました。

お別れ会は Britannia の生徒が歌を歌ってくれたりダンスを披露してくれたりしました。最後の見送りではバスのそばまで来てくれて窓からハイタッチや手を振ってさよならをしました。

Britannia の生徒はみんな優しく、たくさん話しかけてくれて、バディもいろいろな話をしてくれたり授業中に分かりやすいように説明し直してくれたりと楽しく、学ぶことがたくさんあった2日間になりました。

7.カナダの医療制度について

わたしはカナダで 38 度を超える熱を出しました。ホストファミリーがインフルエンザを心配していたので病院に行くことにしました。

『そもそもカナダの医療の仕組みって？』

日本の医療費は基本的に国民健康保険により3割負担です。ではカナダはどうでしょうか？

カナダではメディケアという、日本でいう国民健康保険のようなものがあります。税金がたかいかわりに、医療費はすべて国が負担します。入院・通院・手術は一切お金がかかりません。しかし、眼科、歯科、薬代は 100%自己負担になります。

『実際に病院にいったら？』

カナダで担当してくれた向こうのスタッフから聞いた話だと、病院にいったら体調が悪い中 1.2 時間待つ可能性もあると言われ、行くか行かないかの判断を委ねられました。わたしは行くことにしましたが、ここからわかるように待ち時間が長いことがカナダの医療制度の欠点だそうです。

幸いなことにわたしは予約していたのでついでから 15 分くらいで中に入れました。医療通訳の方につれられドクターの部屋に入りました。

熱を測り症状を聞かれ診察してもらいました。特に変わったことは、ありませんでした。少し強めの頭痛薬と解熱剤をもらってその日は終わりました。

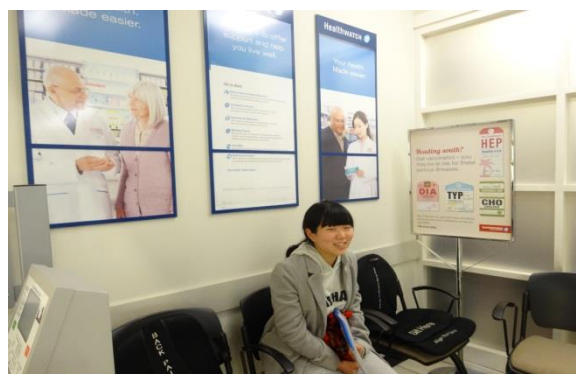
『行ってみたいの感想』

38 度を超える熱が 2 日続いたのでわたしはインフルエンザでもおかしくない心配していました。最後に、インフルエンザが心配ですとドクターに伝えると、

「今は流行っていないし、症状を聞く限り違うだろうから平気です。」と言われ案外適当なんだな、と思いました。頭痛・解熱剤が思ったより強くて飲みすぎると逆に頭痛がしました。

スタッフや学校の先生方に大変なご迷惑をおかけしてしまいましたが、医療系に進むわたしにとっては本当に貴重な経験となりました。

日本の医療制度にも様々な問題点があります。これからもこのような問題点から目を背けずに考えていきたいと思います。



8. 日本との文化の違いについて

カナダに到着後一番初めに感じた日本との大きな違いは、道路の右側通行でした。私は、日本でオートバイに乗っているので左側通行に慣れているせいか、余計に違和感がありました。車で助手席に乗っている時は少し恐怖感すら感じてしまうほどでした。その他にも、カナダは車の交通量がとても多く、公共バスの優先道路があったり、高速道路はほぼ全てが無料であったりと、驚きの連続でした。

また、道路に関するもうひとつ私が一番驚いたのは、カナダでは信号が赤でも歩行者等がいなければ右折する事ができることです。最初ホストファミリーの運転で町を走った時、赤信号なのに右折していて、え、大丈夫なの？と思いました。それが普通だと気付いたのはそれが何回も繰り返されているのを見て、現地の日本人のガイドさんに聞いたからです。

次に驚いたのはトイレです。日本のトイレは個室なのに比べ、カナダのトイレはバスルームと洗面所が一体になっており、部屋のすみにちょこんとトイレがあるので、私は最初、開放的過ぎて落ち着きませんでした。そしてもうひとつ、それはウォシュレットです。今日の日本では、大体どこの家庭のトイレにもついていますが、カナダでは付いていないことが一般的のようで、不便さを感じます。このとき本当に日本は素晴らしいと感じました。意外と、文化の違いというもの、そういう生活をするなかで必要なさいなことが多いと思います。例えば他にも海外の家では基本的に土足なのかと思っていましたが、カナダのホストファミリーの家では日本と同じように靴は外用と中用を履き替えていました。日本との明確な違いは玄関という概念だと思います。それは、日本より外と中という感覚が薄いことで、物を忘れたら靴で取りに戻ったり、犬の散歩の後は足を拭かずに家に入れたりする事がありました。日本では、かなりの人がそうする事に抵抗があると思います。

次はカナダ人と日本人についての違いです。私がホームステイしたホストファミリーの家ではお父さんがとても働いていて衝撃を受けました。ホームステイ期間の間、食事を作っているのはほとんどがお父さんで、その他にも掃除や洗い物など、多くの家事をお父さんがやっている姿を見かけました。日本では少し古いですが「亭主関白」という言葉があります。この言葉は、夫が家庭内で威張っていること、簡単に言えばなにもしないことを指します。最近では、この亭主関白の風潮も薄れては来ましたが、それでもまだ夫より奥さんの方が多く家事をこなしているように思います。普段この亭主関白を目の当たりにしている私は、カナダでお父さんが料理をちゃんと作り、家事を普通に日本の奥さんと同じようにこなしていることに、ものすごく驚きました。日本でもこの文化については目を向ける必要を感じます。

最後に食文化についてです。ホームステイ先で出してもらえた食事は全体的に少し

薄味のように思いました。日本では食べるものは濃い味のものを食べる機会が多いので、私たちは日本の味に慣れていることにより薄いと感じる事が多いのではないかと考えます。

最後にカナダに行くことで日本という国の文化について本当に素晴らしく思いました。日本の食文化やトイレ、その他にも日本には沢山の素晴らしいところがあります。そういうことを再確認すると共に、違う文化を尊重し合うことを学びました。日本とは異なる文化を尊重し受け入れる事が出来たとき、私たちはもっと日本という国に誇りを持ち、同時に異なる文化の人々と本当の意味でわかり合えるのだと思います。世界中の人々がその事に気付けば、世界は国、宗教、人種などを越えて一つになれると私は信じています。

9.最後に

このカナダプログラムが成功したのは、私達を常に支えてくれた久保先生と呉先生、そして段取りなど様々な準備をして頂いた HIS の秋澤様、現地で私達を助けてくださった MYK Enterprises の皆様、そして何より私達をカナダに行かせてくれた保護者の皆様のおかげです。皆様のおかげで、私達はとても貴重で生涯忘れることのできない経験をする事ができました。

本当にありがとうございました。

